



村田隆男

介護保険制度のあり方パートⅢ

質① 介護ヘルパーが不足する中、厚生労働省の「介護」を地域で支える仕組みは間に合うか。行方不明認知症高齢者の現状は。

答① 「小地域ケア会議」を連合町内会44支部で実施できれば支え合いの一翼を担える。身元不明での保護はないが、徘徊する危険性のある方は2034名。

質② 住民や企業が定期的な清掃美化活動を行う「おかやま」アダプト事業の津山版に取り組んでは、各種団体等の環境美化活動「花いっぱいコンクール」事業の趣旨は。

答② 事業研究し道路清掃など通年的な活動を図りたい。花と緑あふれるまちづくりを推進し、地域の皆様の自然環境美化意識を高めることを目的としている。

美術館建設について

質① 美術館を造るには構想段階より専門的な知識を持つ学芸員の意見を聴く必要がある。有能な学芸員をどう確保するのか。

答① 美術館構想審議会の答申を受け、建設の基本計画を策定する段階から学芸員の意見を取り入れる必要がある。

質② 中山間地の活性化のため木材の消費を拡大し、林業の発展に力を入れるべき。一宮保育所は地元産の木材で建設し、津山の木造建築のモデルとなるようにすべきでは。

答② 当市は農林業を成長戦略の柱と位置付け山村地域の活性化を考えている。保育所建設は県産材での在来工法で設計し、内装や家具等も県産材を使う予定。



西野修平

質① マイナンバー制度導入に向けて、今年度の取り組みは。

答① マイナンバーの導入は、平成27年10月に津山市の住民に対して個人番号が割り当てられる。制度の利用や個人番号カードの活用について、広報活動を通じて周知を図っていく。システム改修に1億1千8百万円程度を見込んでいます。

質② 農業における多面的機能支払交付金の取り組みについて。

答② 今年度は農振農用地の61%が制度を活用する農地となる。地域資源の質的向上を図る共同活動は45%の活用にとどまっている。資源向上活動、特に施設（農業用水路等）の長寿命化活動を推進していく。



安東伸昭

平成26年度津山市の取り組み